

防災・災害対策 ICT セミナーご案内

大災害に関する将来への提言・ICTはこれからの災害にどう備えるか

開催主旨

本年（2011年）10月23日は中越地震発生の7周年記念の日に当たります。

当地域は中越地震被災から7年経過しましたが、その間に中越沖地震、また今年は東北関東大震災と同時に起こった長野県北部地震、更には、7月末の新潟福島豪雨など次々と災害の洗礼を受けました。

十日町産業フェスタの2日目当日は、まさに中越地震の起こった日でもあります。

この機会に、阪神淡路大震災から中越震災を経て東北関東大震災という日本国から注目を集めた大災害をICTの視点から振り返ると共に、今後の災害に対する備え方などの検証をしたいと思います。

今回、新潟県IT&ITS推進協議会助成金事業として、十日町市産業フェスタに於ける妻有ネットフォーラム主催イベントとしてセミナーを実施すると共に、東日本大震災を契機に結成された、情報支援iSPP（Information Support Pro Bono Platform）の全体会合を共催するものです。

多数の方々のご参集をお願いいたします。

日時 平成23年 10月23日（日）10:00～13:00

場所 新潟県十日町市 地場産業振興センター（クロスステン：中ホール）

スケジュール

● 災害時及び復旧時の情報行動についての事例報告（10:00～11:30）

会津 泉氏（基調講演）・・・ISPP及び情報行動調査など

酒井 紀之氏（東日本大震災）・・・震災時のIT活用状況

井ノ口 宗城氏（中越・中越沖大震災）・・・新潟大学災害・復興科学研究所

松崎 太亮氏（神戸大震災）・・・震災時の状況とその後の復興等に於けるIT活用

※講師プロフィールは裏面

● パネルディスカッション（11:30～13:00）

「将来の災害に備えての情報行動のありかた」（モデレーター：会津氏）

パネリスト：酒井氏、井ノ口氏、松崎氏、

尾身 誠司氏（NPOセーフティネットぼうさい代表）

佐野 誠市氏（十日町市総務部総務課情報システム係長）

論点

- ▶ 災害時に於けるICTの役割の変遷を振り返る
- ▶ 事業継続（BCP）、生活継続の為にどう活用できるのか？
- ▶ 今回の東日本大震災でのICTの使われ方と問題点
- ▶ 記憶を風化させない為に、将来への備えの為に！災害記録や伝承へのICT活用

主催：妻有ネットフォーラム 共催：情報支援プロボノプラットフォーム（ISPP）

後援：新潟県IT&ITS推進協議会、新潟県IT産業ネットワーク21、NPO法人ICT越後応援隊、十日町地域ソフトウェア産業協議会

このセミナーは、新潟県IT&ITS推進協議会助成金事業です。

会津 泉 (あいず いずみ)

多摩大学情報社会学研究所主任研究員・教授、(財)ハイパーネットワーク社会研究所副所長(兼任)、慶應義塾大学大学院 非常勤講師

日本インターネットドメイン名協議会幹事、インターネット協会評議員、総務省 IPv6 高度利用研究会構成員

1952年仙台市生まれ。1986年ネットワークデザイン研究所設立。1991年国際大学 GLOCOM 企画室長。1993年ハイパーネットワーク社会研究所研究企画部長を兼任。1997年マレーシアにアジアネットワーク研究所を設立。2000年東京に戻る。2004年6月多摩大学情報社会学研究所主任研究員に就任、現在に至る。

松崎 太亮 (まつざき たいすけ)

神戸エンタープライズ・プロモーションビューロー・神戸市企業誘致推進本部スパコン・大学グループグループマネージャー

(神戸市産業振興局企業立地課 主幹)、神戸と学ぶ防災市民塾事務局長、iSP 代表幹事

阪神・淡路大震災発生時に被災状況を映像で記録し、翌日より神戸市ホームページで配信。

現在、仙台市・名取市等の復興支援派遣隊長を務める他、トルコ、インドネシア、アルメニア、アルジェリア国等の防災教育支援も行う。神戸と学ぶ防災市民塾事務局長、iSP 共同代表幹事。

学習素材のデジタル化連携促進事業連携支援委員、震災教育教材 DVD 版「ビジュアル版幸せ運ぼう」企画制作委員、国立教育政策研究所 教育情報ナショナルセンター運営委員などを歴任。

現在は、スーパーコンピュータを利用する企業・大学の誘致活動の一方、海外への防災教育支援も行う。トルコ、インドネシア、アルメニア、アルジェリア国にて防災教育派遣研修講師 (JICA, ADRC 等招聘)。

著書：「防災都市神戸の情報網整備」、「神戸・教育復興の10年」、「インターネット白書2011」(共著)。

賞歴：文部科学省「インターネット教育活用実践コンクール文部科学大臣賞」、日本災害情報学会廣井賞(共同受賞)。

酒井 紀之 (さかい のりゆき)

株式会社ソフトウェア開発代表取締役社長

iSP 情報プロボノプラットフォーム代表理事、NPO 法人杜の考房会員

1961年福島県郡山市生まれ。1991年株式会社ソフトウェア開発を設立。

インターネットが日本に上陸する以前、東北で初の日本語 BBS (電子掲示板)「HANAGASA」を開発し開局。会社設立後は、企業、個人の立場で宮城県や仙台市と協力し、東北におけるインターネットの普及活動を行う。その一環として第三セクター株式会社仙台ソフトウェアセンター (NAVIS) の技術顧問として自治体ネットワークシステムの構築に取り組む。産業技術研究開発事業東北経済産業局審査委員、名取市情報システムアドバイザーなどを経験。震災後は被災地支援のため iSP に参画。

専門分野はサーバー構築、ソフトウェアの開発であるが、システムエンジニアの経験から、主に IT アーキテクト、自治体 IT コンサルタントとして活動。

現在は iSP の活動のほか、名取市や、災害時の後方支援基地を作るべく活動を行っている自治体へのアドバイス、被災地へのビジネスマッチング、東北自治体クラウドシステム構築へ向けた活動など、震災を踏まえた ICT の役割を具現化すべく活動を行っている。

井ノ口 宗成 (いのぐち むねなり)

新潟大学 災害・復興科学研究所

学位：博士 (情報学)

役職：助教 専門：危機管理情報学/復興情報学

H15.03.25 京都大学 工学部 地球工学科 卒業

H20.11.25 京都大学大学院 情報学研究所 社会情報学専攻 博士号 (情報学) 取得

職歴

H20.04.01 新潟大学 災害復興科学センター 特任助教

～ H23.03.31

H23.04.01 新潟大学 災害・復興科学研究所 特任助教

～ 現在に至る

H20.05.01 新潟県柏崎市 非常勤職員 (無給)

新潟大学 環境・防災 GIS センター運営委員 (H20.4～現在)

京都府戦略的地震防災対策指針策定部会 (H20.7～H21.3)

櫃原市防災推進委員会作業マニュアル策定部会 (H20.4～H21.3) 等

災害対応支援・現地調査等

・平成 23 年東北地方太平洋沖地震災害：緊急地図作成チームによる国レベルでの状況認識の統一支援および意思決定支援 (2011.3～)

・平成 22 年鹿児島県奄美地方における大雨災害：大雨災害時における避難実態の調査および行政対応の実態調査 (2010.12)

・平成 21 年台風 9 号災害：兵庫県佐用町における人的被害発生メカニズムの解明 (2009.9)

・平成 21 年 7 月中国・九州北部豪雨災害：大雨災害時における行政対応の実態調査 (2009.12)

・2008 年宮城・岩手内陸地震災害：チームにいた情報先遣隊としての現地調査および地図作成支援 (2008.6)

・2007 年新潟県中越沖地震災害：柏崎市における被災者台帳の構築と被災者生活再建支援システムの開発 (2007.7～)

・2007 年新潟県中越沖地震災害：新潟県庁における Emergency Mapping Center の運用支援 (2007.7～2007.8)

・2007 年石川県能登半島地震災害：輪島市における GIS を基盤とした被災者生活再建支援業務の支援 (2007.3～2007.7)

・Governor's of Emergency Service (アメリカ・カリフォルニア州)：Incident Command System (ICS)・Standard Emergency Management Systems (SEMS) に基づく危機管理体制の実態調査 (2005.2)

・スマトラ沖地震津波災害：GIS を用いた被害現況地図の作成と配信 (2004.1)

・2004 年新潟県中越地震災害：小千谷市におけるり災証明発行業務の支援 (2004.10)

・2004 年 7.13 新潟豪雨水害：GIS を用いた被害発生メカニズムの解明調査 (2004.8)

・2004 年福井豪雨災害：鯖江市の水害被害の実態調査 (2004.7)

・Pacific Disaster Center (アメリカ・ハワイ州マウイ島)：GIS を基盤とした危機管理体制の実態調査 (2004.3)

・2003 年三陸沖地震災害：GPS 付デジタルカメラの有効性についての検証 (2003.6)